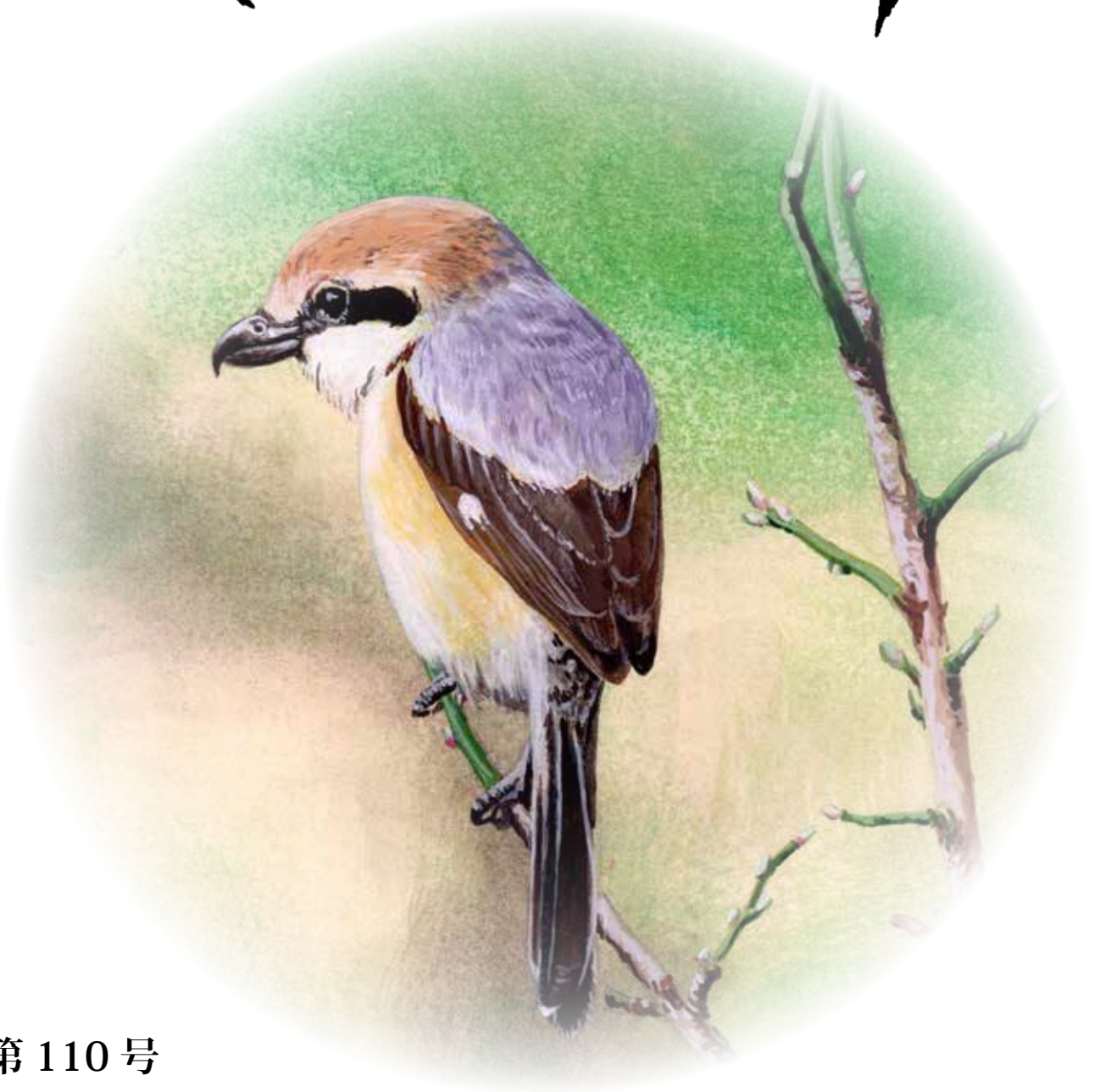


あざむし



第 110 号

2021 年 9 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



2015年度から2019年度にかけての5年間、垂坂公園に同個体のシロハラが飛来しました。大型ツグミ類が5年続けて飛来するのは珍しいようですので、その記録を報告します。

初めての出会いは2016年の元旦です。椿の木の中からツィーという地鳴きが聞こえてきたため、のぞき込んでみると目の前にシロハラがいました。全く逃げるそぶりも見せずじっとしています。この頃からすでに人慣れしている個体だったようです。

その後、椿の木と小道を挟んだ向かいにあるピラカンサスの茂みに移動し、以後、越冬中はほぼピラカンサスの茂みで暮らしていました。ここは相当居心地が良かったのか、5年間ずっと変わりませんでした（写真4）。



写真1：2016/01/24

木の根元の目立つところでぼーっとしていたり、落ちていたピラカンサスの実を拾っていたり、人や散歩の犬がすぐそばを通っても全く動じず、隠れようともしません。なかなか肝の据わった個体であったと思います。今回の写真はすべて400mm（クロップで600mm）のノートリミングです。どこまで近づいても逃げないため心配になるくらいでした。

渡りの時期が近づくとピラカンサスの茂みを出て、近くの原っぱで餌を探ることが多くなります。ミミズや昆虫、時にはカエルを食べるなど渡りに備

目次

垂坂公園 シロハラ5年間	2
表紙の言葉	2
アカハラの亜種オオアカハラについて	4
はじめまして	5
リュウキュウサンショウクイの観察日記	6
県営鈴鹿青少年の森へ	
サッカースタジアム建設について	7
サギ類のコロニーについて	8
チョウゲンボウの営巣（2021年）	9
ほのぼの鳥さん Watching	10
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
連載第25回 メダイチドリとオオメダイチドリ	12
今季のシロチドリの繁殖	16
日本野鳥の会三重 2021年度総会 報告	17
事務局だより	17
松阪・道の駅 飯高駅へ	
「ツバメの子育て見守り」感謝状	18
ツバメの子育てにSOS??	18
会員を増やす取り組みについて	19
野鳥記録	20
危機の鳥、アカハジロ	24
探鳥会予告（2021年10月～12月）	25
探鳥会報告（2021年5月～2021年7月）	26
編集後記	28

表紙の言葉

モズ

名張市 田中 豊成

モズを漢字で書くと、百舌と鶇になっています。時々モズが他の鳥の声で鳴くことを聞いたりしますね。季節はずれの鳥の声を聞くことがあります、声の主がモズと分かると安心します。嘴は猛禽類と同じような形をしているから、モズは小さな猛禽だと勝手に思っています。主食は昆虫ですが、時には鳥を捕らえる事もあります。以前、捕らえたスズメを足で掴んで飛んでいるのを見たのが印象に残っています。鳥の声を真似るのは、外敵でないと油断させて襲うからでしょう。

夏場にはあまりモズの声が聞かれないが、毎年秋になると「キィー、キィー、キィー」と鳴くので、ああ秋が来たなと感じる事が多いです。

えて栄養を蓄えているのがよくわかりました。

2年目、同じ場所にシロハラがいたため撮影し、同じ個体だと断定できました。左目の下に白い羽が3つあるのが特徴です(写真5)。最終的に2019年度まで5年間飛来し続けましたが、2020年3月6日以降姿を確認できていないため、いずこかで落鳥したのだと思います(写真2)。



写真2：2020/03/06



写真3：2016/02/08



写真4：ピラカンサスの茂み

表：垂坂公園のシロハラ	
1年目：2015-2016	
初認	2016/1/1
	この間、観察日数 5日
終認	2016/4/24
2年目：2016-2017	
初認	2016/12/29
	この間、観察日数 8日
終認	2017/4/15
3年目：2017-2018	
初認	2017/11/23
	この間、観察日数 9日
終認	2018/4/21
4年目：2018-2019	
初認	2019/1/3
	この間、観察日数 4日
終認	2019/2/11
5年目：2019-2020	
初認	2020/2/22
	この間、観察日数 4日
終認	2020/3/6



写真5：2017/01/09

5年にわたって間近に観察させてもらえたことは幸運であったと感じます。最後に雌雄の判断ですが、(5年間変わらず)頭が薄いグレーであり、喉のあたりに縦斑が認められることから雌であると思われます。普通種であっても観察を続けることで思わぬ発見があるものだと私は考えております。野鳥の生活に影響を与えないような観察を今後も続けていきたいと思っております。

(編集部付記：1年目の写真(写真1、3)を見ると大雨覆の羽縁に白い縁があり、幼鳥、すなわち2015年の夏に生まれた個体であることがわかります。2年目からは白い羽縁はありません。初年の冬から人をあまり恐れない個体であったのでしょうか。なお、この紙面に掲載した写真の一部は細部が確認できるよう、トリミングしてあります。)

アカハラの亜種オオアカハラについて

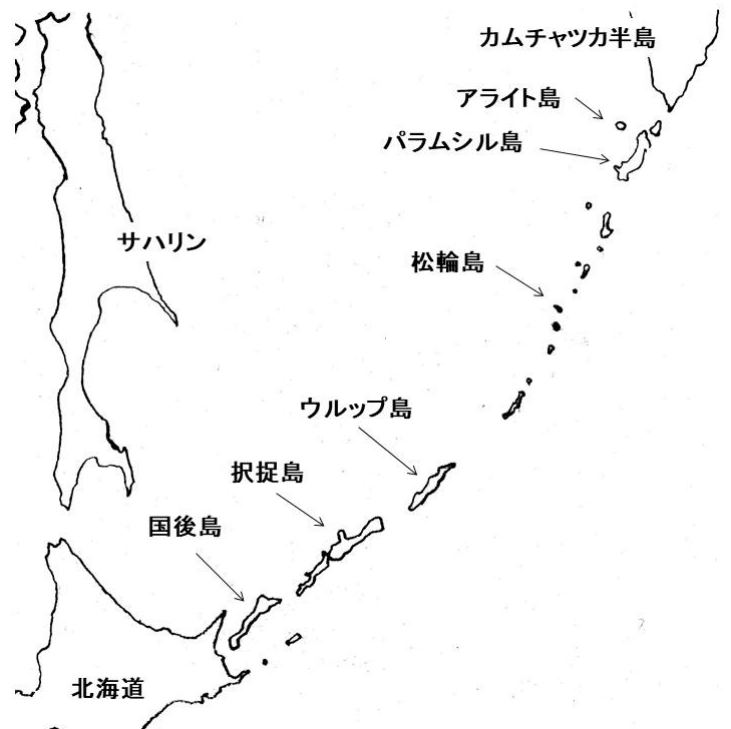


津市 平井 正志

アカハラの亜種オオアカハラは山階芳麿により1929年に当時の鳥学会誌「鳥」に投稿された論文を基礎としている。彼は北千島で採集されたアカハラ雄成鳥5個体、およびメス成鳥1個体の剥製標本の計測値（翼長と嘴高）を北海道、サハリン、本州で採集されたアカハラ28個体の雄と、5個体のメスのそれを比較した。その結果、千島で採集されたアカハラは大きく、測定値は重複せず、区別できるとした。さらに羽色も前者では暗い(darker)とした。彼はこの亜種の生息範囲を北千島パラシムル島、松輪島とし、おそらくウルップ島でも生息すると記述している。当時極めて著名な研究者、しかも皇族の論文でもあり、これ以降この亜種は学会内では認められたということであろう。

戦後1979年、国立科学博物館の森岡弘之はそれを再検討し、論文を発表した。彼は繁殖期に採集された標本について検討した。北千島産の雄標本は4個体で、パラシムル島(北緯50°20′)産2個体、アライト島(北緯50°51′)産、松輪島(北緯48°5′)産の各1個体で、翼長4個体の♂で126.5-131mm、嘴峰長3個体の♂で22.5-24mm、嘴高3個体の♂で6.5-6.6mmであった。一方、樺太・北海道・本州産の標本では翼長は17個体の♂で120-128.5mm、嘴峰長は16個体の♂で21-24.5mm、嘴高は46個体の♂で5.7-6.4mmであった。嘴高を除くと測定値は重複し、測定値では識別できないとした。すなわち、山階の論文の否定である。

一方、羽色の色調については「北千島の4標本では、頭上・顔・臆・喉が非常に濃い黒褐色で、頭上の色は後頸以下のオリーブ褐色とはっきり異なる。樺太・北海道・本州で繁殖期(5-7月)に採集された♂成鳥の標本は、みな頭上から背にかけてほぼ一様なオリーブ褐色で、頭上は背の色より著しく暗色なものはなかった。」とし、区別できるとした。この色の差についてはこの論文では著述だけで、色見本などに照らし合わせて、あるいは数値等で客観的に判断できるようにはなっていない。博物館の中で、特に調整された光源の下で、いくつもの標本と比べることができれば色の差からどちらの亜種か区別できるだろうが、野外では、捕獲できたとしても、識別できないであろう。まして、野外の写真からこの亜種の違いを判定するのは不可能と言わざるを得ない。



この亜種についてはもう一つの問題点がある。亜種アカハラと亜種オオアカハラの繁殖分布がどのようになっているか明確でない。この亜種を認める立場であっても、北海道は道東も含め亜種アカハラが繁殖するとされている。亜種オオアカハラとされる標本は松輪島以北で採集されている。すると松輪島より南、国後島までの千島列島ではどのように分布しているのか？森岡の記述によれば山階鳥研には中間と同定されたものがあるという。戦前においても千島列島における両亜種の分布については調べられていない。領土問題のある現在ではロシアの研究者の努力に待つしかないが、もし、測定値や羽色が連続的な変異を示すのであれば、亜種の設定は不可能であろう。

DNA多型と集団遺伝学に基づく解析という手法も考えられるが、それにしても亜種オオアカハラとされる北千島産標本は現状では数個体しかなく、この手法も困難であろう。近代的科学にもとづく亜種の設定は、今しばらく待つべきであろう。

参考文献

山階芳麿 1929 再び千島列島産鳥類に就いて 附アカハラの新亜種の記載。鳥6: 145-160。
森岡弘之 1979 日本産鳥類の分類・分布的研究 1. オオアカハラについて。Tori 28: 125-129。



2021年4月に入会させていただきました。鳥の追っかけは今年に入ってから始めたばかり。公園のムクドリを「珍鳥かしら？」と二度見、三度見してしまう超初心者です。



サギの親子

美しいエメラルドブルーの目先、繊細なレースの飾り羽根がふわぁーっと風に広がる様子にうっとり！

ゴイサギは、今までまともに見たことがなく、真っ青な羽根と白いアンテナ（冠羽）に「宇宙から飛んできたペンギン？」と目を疑いました…笑



ゴイサギ

伊勢の倉田山公園には、サギやカワウのコロニーがあり、5月から7月は婚姻色の美しいサギたち、エサをねだる可愛いヒナたちでにぎわいます。道路からすぐ近くで営巣してくれるので、へっぽこバーダーの私でもその一部始終を楽しく観察することができました。

チュウダイサギは、どこにでもいるシラサギという認識しかなかったのですが、間近で見ると美



オオルリの幼鳥

また、幼鳥のホシゴイとの落差にもびっくりしました。

虜になってしまうバーダーさんも多いらしい伊勢の夏の山ですが、鳥さんにめぐりあうには、私には険しい道のりでした。それでも、やっとのことで、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、アオバズクに出会うことができました。キビタキは、予想以上に小さく、すばしっこく…オオルリは逆光で黒ルりにサンコウチョウは、ホイホイ鳴くわりにはホイホイと姿を見せてはくれず…

その中でも、アオバズクは日中にもかかわらず「ホウホウ」とまあいい目を出迎えてくれました。そして、天使のように微笑みかけてくれたのは、オオルリのおちぢちゃん！見つけたときは、オオルリのメス？と思ったのですが、よくよく見ると翼は青く、巣立ったばかりの幼鳥だと思いました。

まだあどけない表情が愛らしい、今夏いちばんのお気に入り写真です。